

令和4年度

# 事業報告書

社会福祉法人きすき福祉会  
特別養護老人ホームさくら苑  
特別養護老人ホームさくら苑さくらんぼの家  
短期入所施設特別養護老人ホームさくら苑  
木次町デイサービスセンター  
木次居宅介護支援事業所  
小規模多機能型居宅介護事業所桜花

## I. 経過

年月日	事業内容
令和4年4月19日	雲南地域介護サービス事業管理者連絡会役員会（サンワーク木次）
22日	入所検討委員会（さくら苑会議室）
5月15日	雲南地域介護サービス事業管理者連絡会臨時総会（書面決議）
25日	令和3年度決算監査（さくら苑会議室）
6月8日	第1回理事会（チェリヴァホール） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度事業報告及び計算関係書類並びに財産目録の承認について</li> <li>・ 役員候補者について</li> <li>・ 特別養護老人ホームさくら苑特浴機器購入契約の締結について</li> <li>・ 積立資産の取り崩しについて</li> <li>・ 令和4年度資金収支補正予算について</li> <li>・ 定時評議員会の招集事項について</li> </ul>
23日	定時評議員会（サンワーク木次） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度事業報告について</li> <li>・ 令和3年度計算書類及び財産目録の承認について</li> <li>・ 理事1名の選任について</li> </ul>
7月5日	参議院議員選挙不在者投票（さくら苑会議室）
19日	新型コロナワクチン接種・4回目（木村 Dr.）
21日	新型コロナワクチン接種・4回目（横山 Dr.）
22日	入所検討委員会（さくら苑会議室）
8月3日	新型コロナワクチン接種・4回目（辰村 Dr.）
5日	雲南市社会福祉法人連絡会正副幹事長会（三刀屋健康福祉センター）
31日	夜間火災想定避難訓練
9月1日	雲南市社会福祉法人連絡会幹事会（オンライン会議）
14日	土砂災害想定避難訓練
28日	第2回理事会（みなし決議） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給与規程等の一部改正について</li> <li>・ 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について</li> </ul>
29日	社会福祉法人実地指導監査（さくら苑会議室）
10月5日	雲南市社会福祉法人連絡会総会（書面決議）
12日	昼間火災想定避難訓練
22日	入所検討委員会（さくら苑会議室）
11月16日	新型コロナワクチン接種・5回目（辰村 Dr.）
18日	社会福祉法人監事研修（オンライン研修）
12月1日	新型コロナワクチン接種・5回目（横山 Dr.）
20日	雲南地区福祉施設協議会総会（雲南広域連合）

年月日	事業内容
令和5年1月10日	新型コロナウイルスワクチン接種・5回目（木村 Dr.）
2月9日	第3回理事会（みなし決議） ・評議員選任候補者の推薦について ・評議員選任・解任委員会の招集事項について ・給与規程等の一部改正について
13日	評議員選任・解任委員会（さくら苑会議室）
3月17日	福祉サービス苦情解決委員会（さくら苑会議室）
22日	第4回理事会（下熊谷交流センター） ・令和5年度事業計画及び資金収支予算の承認について ・令和4年度資金収支補正予算（第2回）の承認について ・役員等賠償責任保険契約について

## II. 総括的事項

新型コロナウイルス感染症は、令和4年度も依然として猛威を振るい、特にオミクロン株により昨年末から年明けにかけてピークを迎えた第8波では、高齢者を中心に死亡者数が最多となるなど極めて憂慮される事態となりました。

きすき福祉会が運営する各施設においても、昨年末までは利用者に感染は確認されなかったものの、年明け早々さくら苑利用者及び職員にコロナ感染のクラスターが発生し、約半月にわたり感染者の施設内療養や通所系サービスの臨時休業等のコロナ対策に追われる状況となりました。また、2月末にも同じくコロナ感染が確認されたため、その対応を余儀なくされたところです。

いずれも嘱託医や雲南保健所等の関係機関との連携の下で、法人職員が相互に一致協力して感染対応にあたった結果、感染者の重症化やさらなる感染拡大といった最悪の事態は避けることができました。しかしながら、利用者やそのご家族にご不便をおかけするとともに、臨時休業による減収も少なくなく経営面でも大きな影響を受けたところであり、今後も新型コロナをはじめとする感染症対策に万全を期す必要性を痛感した出来事でした。

このようにまさに新型コロナに翻弄された令和4年度でしたが、コロナ禍での施設運営も3年目となり、マスク着用や手指消毒、健康管理などの感染予防策の徹底はもちろんのこと、施設利用者や職員に対するワクチン接種や面会制限、外出自粛など引き続き感染防止に努めるとともに、桜まつりや納涼祭、長寿祭など新型コロナにより中止したイベントに代わり職員が創意工夫した行事を企画・実施するなど、利用者に喜ばれるサービスの提供に努めました。

また、「看取りケア」「認知症ケア」「口腔ケア」「医療的ケア」などの介護サービスの質の向上と充実を図り、利用者に寄り添い「安全」「安心」「満足」していただける質の高いサービスを実践しました。

さらに、社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の一つとして雲南市社会福祉法人連絡会による「身近でなんでも相談窓口ネットワーク事業」や「うんなん福祉・安全サポーター活動」に参画し地域貢献にも取り組んだところです。

一方、経営面では、小規模多機能型居宅介護事業所桜花の利用率の低迷や短期入所とデイサービスの新型コロナによる臨時休業に伴う減収が響き、法人全体の事業活動収入は対前年比で1.27%（610万円）の減少となりました。また、人件費を中心に経費の抑制に努めた結果、法人全体の事業活動支出も対前年比で0.97%（472万円）減少しましたが、収支の改善には至らず法人全体の資金収支差額は一昨年、昨年に引き続き1,048万円の赤字を計上することになりました。

なお、9月29日に法人の監事2名の立会いの下で雲南市による社会福祉法人実地指導監査を受けましたが、その結果文書による是正・改善指示事項はなかったものの口頭による指示事項がありましたので、順次改善を図っているところです。

### Ⅲ. 法人本部

#### 1. 理事会・評議員会・監査会・評議員選任解任委員会

- (1) 今期は、新型コロナの感染拡大により理事会4回のうちの2回をみなし決議で行いましたが、第1回と第4回目の理事会と定時評議員会は対面で開催することができました。
- (2) 監査会は、5月25日に開催し、令和3年度決算の状況や会計処理、財産管理の執行状況並びに業務運営について監査を受けました。
- (3) 2月13日に評議員選任・解任委員会を開催し、民生児童委員の改選に伴い辞任された評議員2名の後任の評議員を選任しました。

#### 2. 経営理念の徹底及び経営の透明性の確保

- (1) 職員に対して、法人の基本理念や事業計画、予算等について、各種会議、研修等を通じて周知を図りました。
- (2) 社会福祉法人としての経営の透明性を確保し、公正で開かれた事業運営を担保するため、定款、事業計画及び事業報告、財務諸表等について、ホームページや広報誌「さくらだより」等を通じて公開しました。
- (3) ホームページやブログを通して施設の活動状況を公開するとともに、各施設のサービス提供体制や内容等について「サービス情報の公表制度」を活用し公表しました。

#### 3. サービス管理

- (1) 利用者のニーズをサービスに反映するため、引き続き「お客様の声ノート」の活用したほか、地域密着型サービス施設であるさくらんぼの家と桜花については、定期的に運営推進会議を開催し利用者や地域関係者等の評価を反映させる取り組みを推進しました。
- (2) リスク管理委員会を中心にリスクマネジメントとして事故報告書、ヒヤリハット報告書等を作成し、事故の数量的把握や事故原因の分析を行うことにより、問題点と改善策を職員が共有し事故の再発防止に努めました。
- (3) 新型コロナウイルスをはじめ感染症対策や衛生管理については、手洗いや手指消毒など標準予防策の徹底や、防護用品の装着訓練など感染症の発生を想定した研修や訓練を行うとともに、感染対応に必要な備品等を調達・確保に努めました。

- (4) 身体拘束委員会を定期的に開催し、職員研修会等を通じて人権擁護の姿勢を常に保ち、できる限り身体拘束をしないよう職員一丸となって廃止に向けた取り組みを進めた結果、今年度も身体拘束につながるようなケースは発生しませんでした。
- (5) 虐待防止や権利擁護など人権意識の高い職員の育成に向けた研修を実施するとともに、虐待防止チェックリスト等を実践することによって虐待防止にかかる自己覚知と意識の向上を図りました。
- (6) 苦情等については、利用者の声として受けとめ、職員会議、苦情解決委員会、第三者委員等によりきめ細やかな対応と今後の改善策を検討し、問題の解決やサービスの見直しに結びました。
- (7) サービスの質的向上に向けた取り組み
  - ① 認知症介護研修については、1名が実践者研修を受講することになりましたが、新型コロナウイルスの影響により途中で受講を辞退しました。
  - ② 利用ニーズの高まる医療的ケアに対応して、介護職員によるたんの吸引等の実施体制の充実のため、さくら苑で2名が実地研修を行いました。
  - ③ 看取りケアについては、本人や家族の想いを受け止めながら嘱託医師の指示のもとで安らかな最期を迎えることができるよう取り組み、今年度は11名の方の看取りを施設で行いました。
  - ④ 老朽化した特浴設備を更新するとともにミスト浴による特浴設備を新たに導入しました。
- (8) 新型コロナウイルス感染防止のため中止したイベントや季節行事に代わり、職員が創意工夫しながら納涼祭やお楽しみ会など施設内だけの行事を企画運営しました。
- (9) 介護業務支援システム「福祉見聞録」を活用し、介護職員の事務的負担の軽減と業務の効率化によるサービス向上に努めました。

#### 4. 人事管理

- (1) 引き続き「介護職員処遇改善加算」及び「介護職員等特定処遇改善加算」を原資に介護職員を中心に「処遇改善手当」や「特定処遇改善手当」を支給し給与面での待遇改善を行いました。
- (2) 令和4年9月まで国の「介護職員処遇改善支援補助金」を活用して「処遇調整手当」を支給するとともに、10月からは「介護職員等ベースアップ等支援加算」を取得し「処遇調整手当」を正規職員ベースで月額4,500円(500円増額)に改定しました。
- (3) 有給休暇取得の義務化に対応し、対象となる職員全員が5日以上の有給休暇を取得しました。
- (4) 引き続きウェブによる人事考課(E-WORK)システムを活用し、自己評価と上司評価に加えて自己目標の管理プログラムを実施することにより、職員のキャリアアップやモチベーションアップ、人材育成につながるよう取り組みました。
- (5) 新規学卒者については、ハローワークや学校を通じて「受験案内」を配布し募集活動を行いましたが、令和5年4月の新卒採用者はありませんでした。また、ハローワークを通して随時求人を行い中途採用者の採用に結びました。

- (6) 産業医の協力を得て、定期健康診断を全職員対象に年1回（夜間勤務者等は年2回）実施するとともに、コロナワクチンやインフルエンザワクチンの接種や出勤時における健康チェックを行うなど職員の健康管理及び職場の安全衛生管理に努めました。
- (7) 労働安全衛生委員会によるストレスチェックについては、97名中50名が検査を受けましたが、検査結果を受けて産業医のカウンセリングを希望する者はいませんでした。
- (8) 職場風土改善委員会や職員互助会で「あみだくじ大会」や「廊カフェ」、「年代別交流会」を実施し職員の親睦交流を図りました。また、「言わんとわからん箱（意見箱）」の設置や広報紙「チェンジ」の発行等を通じて職員の意見交換の場を提供するとともに、職員互助会に対する助成や各種共済制度の活用により職員の福利厚生の実現に努めました。
- (9) サービスの向上を担う人材の育成
  - ① 職員一人ひとりの意識改革と能力・資質の向上を図るため、研修計画に基づき各部門において研修を実施し、多様化する福祉ニーズに対応できる人材の育成に取り組みました。
  - ② 新人職員については、新人育成ガイドラインを基本にOJTを行い、新人職員が抱える仕事内容や対人関係に関する不安等を気軽に相談できるきめ細やかな支援体制により早期の職場適応と自律的成長を促すことに努めました。
  - ③ 認知症ケア、個人情報保護、倫理及び法令順守、感染症、安全・衛生管理、虐待防止の研修も職員会議時に実施しました。
  - ④ 4年度においては、介護職員2名が介護福祉士資格を取得したほか、介護支援専門員と社会福祉主事にそれぞれ1名ずつ認定されました。

## 5. 財務管理

- (1) 経理規程や税理士事務所によるアドバイスをもとに適正かつ正確な会計処理を行い、監事監査や指導を踏まえて所要の改善を図るなど、社会福祉法人としての会計処理の信頼性、公正性の確保に努めました。
- (2) 稼働率の向上や業務の効率化など支出削減を基本として、適切な予算執行と収益性の確保を図りました。

## 6. 法令等の遵守及び危機管理体制の強化

- (1) 関係機関による講習会や研修に参加し、コンプライアンスの強化に努めました。
- (2) 設備、器具等の定期的な点検及び適正な使用方法の徹底を図るとともに、入浴設備のある施設においては感染症対策として国や保健所の指針及び通知に基づくマニュアルを周知徹底しました。
- (3) 火災や風水害に備え、消防法に基づく自衛消防組織をはじめとした災害緊急体制を整備し火災及び災害避難訓練等を行うとともに、設備器具等の定期的な点検や適切な使用方法の徹底を図りました。（火災避難訓練2回、土砂災害避難訓練1回）

## 7. 経営状況

### (1) 法人全体

事業活動収入については、利用率の低迷や新型コロナの影響により総額で4億7,508万円と前年度から610万円減少しました。

一方、事業活動支出は、人件費等の抑制により総額で前年度に比べ472万円減少し4億8,117万円となりました。

このほか施設整備等による収支(△990万円)とその他活動による収支(積立資産取崩し550万円)を加えると当期の資金収支差額は1,048万円の赤字計上となり、当期末支払資金残高は2億6,780万円(前年度2億7,828万円)となりました。

### (2) 特別養護老人ホームさくら苑及びさくらんぼの家

従来型特養さくら苑及びさくらんぼの家計70床の平均利用者数は66.98人(前年度67.72人)で、介護保険事業収入は3億1,161万円(前年度3億0,775万円)と前年度から386万円の増収となりました。

施設別の内訳は、利用者数については従来型さくら苑(50床)が47.60人、ユニット型のさくらんぼの家(20床)が19.38人、介護保険事業収入ではさくら苑が2億0,977万円、さくらんぼの家が1億0,184万円となっています。

4年度末時点の入所者数は、さくら苑が男性14人、女性35人で平均年齢は90.1歳、さくらんぼの家が男性4人、女性16人で平均年齢は91.3歳となっており、入所待機者は男性34人(前年度61人)、女性108人(同128人)で合計142人(同189人)と前年度から大きく減少しています。

令和4年度中の退所者は、20人(死亡による18人を含む。)でした。

なお、新規入所については、3カ月に1回、外部の委員を含めて入所検討委員会を開催し、透明性、公平性を確保しながら緊急性の高い方の入所を優先しました。

### (3) 短期入所施設特別養護老人ホームさくら苑(短期入所生活介護事業)

短期入所生活介護事業は、利用定員10床による年間の延利用者数が新型コロナによる休業等の影響で3,117人と前年度の3,382人に比べて265人減少し、介護保険事業収入も3,584万円(前年度3,762万円)と前年度と比較して178万円の減収となりました。

### (4) 木次町デイサービスセンター(通所介護事業)

デイサービス事業においても、新型コロナによる休業の影響で利用延人数が5,770人(前年度6,101)と大きく減少し、介護保険事業収入も5,857万円(前年度6,099万円)と前年度に比べ242万円の減収となりました。

### (5) 木次居宅介護支援事業所(居宅介護支援事業)

介護保険事業収入は1,877万円(前年度1,911万円)と前年度から34万円の減収となり、月平均利用者は101.6人でした。

### (6) 小規模多機能型居宅介護事業所桜花

利用延人数は5,804人(前年度6,344人)、日平均利用者は15.90人(前年度17.12人)と利用状況が低迷し、介護保険事業収入も4,808万円(前年5,251万円)と前年度と比較し443万円の大幅な減収となりました。

## IV. 施設別事業報告

### 令和4年度特別養護老人ホームさくら苑事業報告 (さくら苑・さくらんぼの家共通)

#### 総括

令和4年度はさくら苑内にてコロナウイルス感染症が発生し、職員も感染対応などで大変な中業務を行った。幸い利用者様や職員も重症化することなく、施設内の感染も大きく広がることなく施設内療養できたのも、職員が協力しあって拡大防止に努めたことによるものであり、また、感染が無い時には利用者様に少しでも楽しんでいただける日々を提供すべく、グループやユニット毎にレクリエーションや外出等を行い、喜んでいただくケアの提供ができた。

お客様の声ノートや意見交流会での利用者様の声を取りあげ、ケアに反映すべく会議などで情報を共有し、全体研修につなげ質の向上に努めた。職員の方から声を上げて、職員交流会の企画をし、職員間のコミュニケーション向上や組織風土改善につなげる活動が始まった。

平均利用者数については、入院や退所の影響が大きく、さくら苑では過去3年間で1番悪い実績となった。一方、さくらんぼの家は、コロナウイルス感染症は発生せず、入所者様の体調管理に努め長期に入院される方が少なかったが昨年より退所される方が多く、大きく落ちる実績となってしまった。

#### 事業実績・成果

##### 1) さくら苑

利用者様に多く関わり、楽しく穏やかに生活していただく。

計画	担当介護士が外出計画やレク計画を立てて、毎月の行事に挙げて実施する。	実績・成果	コロナ禍で実施が出来なかった外出支援(お花見・紅葉狩り等)も人混みを避けて実施することが出来、季節感を味わって喜んでいただけた。 入浴が無い日にクラブ活動やグループレクを担当職員が工夫して行い、利用者様に参加していただき、俳句などの作品はとてもユニークなものができる。
	月に1回外部講師による移乗技術研修の開催と参加		移乗技術研修はコロナの感染拡大により延期などもあり、思ったように進まなかった。内容はとても良いものであり、今後も研修を続けることで、安全な移乗技術の習得をして統一したケアの実施に努めたい。
	職員間で容易に連絡・連携が取れるようにインフラの整備		掲示板により情報共有し、統一したケアの実施に努めた。 今後はインカムなどの整備も進めていきたい。



	<p>担当者会議やグループ会議等で、センサーやコールにつながる事例の検討を行う。</p>	<p>担当者会議やグループ会議ではセンサーやコールにつながる事例を再検討し少なくなるように努めた。また、センサー・コール対応は変わらず多いが、その中でも職員が協力し利用者様の想いをなるべく聞くように努めた。コールの少ない食事前の時間帯に関わりを持てればよかったので、来年度は職員に指導していく。</p>
--	--	---

## 2) さくらんぼの家

快適に安心して過ごせる環境づくりを目指し、心身の機能の維持・低下軽減に努める。

計画	<p>苑内で行えるレクリエーション等の実施、並びに月毎に季節行事を計画する。</p>	<p>それぞれの季節に応じた行事を行い、デッキでは花を植え、野菜を育てそれを食してもらうことで季節を感じていただけた。閉塞された状態から徐々に外出の機会も増やしていき利用者様の生活の質向上につながった。</p>
	<p>定期的な家族様への状況報告や誕生日の写真の送付。</p>	<p>定期的な家族様への電話や、玄関先ではあるが家族様の来苑も増えその都度状況報告することで情報が共有でき、家族様への安心につながった。</p>
	<p>移乗技術・不適切ケア防止等の苑内研修への参加</p>	<p>コロナ感染症による中止・延期などあり、なかなか思うように研修への参加が出来なかったが、開催した際にはグループミーティングを行い職員同士ディスカッションし、日々の業務につなげることが出来た。</p>
		実績・成果

## 3) 看護

◎利用者様の状態観察を行い、異常の早期発見に努め、重度化や入院となる状況を少なくすることで利用者様の生活を守る。

◎新型コロナウイルス感染症についての知識を深め、感染予防対策を徹底し施設内での蔓延防止に努める。

◎利用者様の生活歴、家族背景、既往歴等を把握し、全人的な介護が提供できるように努める。

計画	<p>担当医との連携を密に行い、適切な処置に繋げる。</p>	<p>利用者様の日々の状態観察を行い、状態変化時には速やかに担当医に報告を行い、指示を受け対応することが出来た。しかし、急変により入院となるケースが多かったり、ターミナル対応となり亡くなられるケースも多かった。</p>
	<p>グループ会議などで、職員に対しての看護実践研修の継続。</p>	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症の県内での感染拡大により会議等が中止になったため十分な看護実践研修は行えなかった。今後も感染状況を見極めながら研修を継続して行っていく必要があると思う。</p>
		実績・成果

	<p>苑内感染症研修を強化し、新型コロナウイルス感染症に対するシミュレーションを実施する。</p>	<p>今年度は初めて施設内でコロナ感染者が発症しクラスターとなったためシミュレーションをする前に本番を迎えてしまい実際にコロナ感染者の介護・看護を実施する事となった。</p> <p>職員それぞれが初めての経験となったが緊張感を持ち日々対応する事が出来ていたと思う。</p> <p>実際に経験した事で今後活かせる部分も増えたのではないかと考えるが過ぎてしまうとまた忘れる事もあるため日頃からの研修はとても重要だと思う。</p>
--	---	--

#### 4) 給食

◎食べる楽しみを持っていただき施設での生活に彩を与える食事となるよう工夫する。

◎HACCPに沿った衛生管理の実施

計画	<p>厨房職員が企画する「お楽しみの日」を年間計画に組み入れる。</p>	<p>調理員の欠員により2回しか実行できなかった。実際のお店に行った雰囲気を感じられる「うどん屋さくら」、旅行気分を味わっていただく「北海道の日」など演出することでより食事を楽しんでいただけた。利用者様からも「これからもやって欲しい」との声もいただいている。</p>
	<p>歯科医師、歯科衛生士の指導の下経口維持計画を策定し、確実にサービスに反映していく。</p>	<p>毎月、歯科医師に助言をいただきながら、12～13名の方の経口維持計画について、ミールラウンドや会議を行い、サービスに繋げることができた。</p>
	<p>常に問題意識を持って調理を行い、少しでも改善できる点があれば、職員全体で検討し、サービスの向上に努める。</p>	<p>調理員の不足により、シルバー人材センターからの派遣職員を加えて、業務担当を見直し、全員の協力で何とか滞りなく食事の提供を行うことができた。</p>
	<p>衛生管理計画の実施、記録、保存を確実に行う。</p>	<p>HACCPに沿った衛生管理計画を策定し、実施、記録を行っている。</p>

#### 5) 介護支援部門

効果性のあるケアマネジメントの情報共有

計画	利用者、担当者と直接面談し、相互理解に努める。	実績・成果	各担当者から口頭で介護サービスの実施状況や、新たな課題の有無を聞き取った。また介護職員からの相談も随時対応し、ケアプランを柔軟に変更し、相互理解が向上するよう努めた。
	電子化された情報は、印刷し、回覧・稟議の形式で各サービス担当者にて共有する。		印刷した情報だけでなく、サービス担当者会議の結論の周知を電子掲示板でその日のうちに掲載し周知するように努めた。今後も継続していきたい。
	各サービス担当者よりサービス実施状況を評価表に記入してもらい、振り返りの機会とする。		一部の各サービス担当者にサービス実施状況を記入してもらったが、評価表の配布、記入が間に合わないことが多かった為、直接職員に口頭でサービスの実施状況を聞き取ったり、サービス担当者会議の場で確認を行ったりと、サービス実施状況の把握に努めた。

#### 6) 相談・管理部門

効率的・効果的な施設運営を行うため、退所や入院により空床となる期間をできる限り少なくしていく、また、LIFE(科学的介護情報システム)の活用を目指す。

計画	さくら苑の平均利用者数48.5人(稼働率97%)を目指す。	実績・成果	今年度実績は47.60人(昨年度は48.17人)で、稼働率は95.21%と大きく落ち込んだ。 退所される方が多く、目標に届かなかった。1年を通して利用者数が伸び悩んだ。
	さくらんぼの家の平均利用者数19.6人(稼働率98%)を目指す。		今年度実績は19.38人(昨年度は19.55人)で、稼働率は96.90%。 退所される方が多く、目標に届かなかった。夏から秋にかけて利用者数が落ち込んだのが原因であった。
	退所後の調整を速やかに行い、空床となる期間を短縮する。		さくら苑とさくらんぼの家の退所される人数が多く、すぐに対処できなかった。目標を大きく割ったのも調整がうまく出来なかったことが原因である。入所検討委員会後から調整を早くし、空床を少なくしていく。
	LIFE運用前に、既に運用されている施設訪問をし、状況や運用方法について聞く。		コロナ禍でもあり、自施設でも感染が出た関係で年度末になってしまったが、同じ電子システムを使用している施設に聞きに行く事ができ、加算会議についても行って方向性は出すことが出来た。2024年には医療・介護・障がいのトリプル改正があると思われ、早い対応がとれるような体制づくりをしていきたい。

\*病院受診

① 外来受診

(さくら苑)

受診科	内科	外科	整形	皮膚科	眼科	耳鼻科	泌尿器	救外	神内	精神
人数	31	4	5	24	1	5	19	7	1	0

(さくらんぼ)

受診科	内科	外科	整形	皮膚科	眼科	神内	泌尿器	救外
人数	10	2	4	3	0	0	1	3

② 入院

(さくら苑)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
前年度	0	3	1	1	0	4	3	2	3	1	1	5
今年度	2	1	1	1	1	1	4	5	4	3	3	0

(さくらんぼの家)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
前年度	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0
今年度	0	2	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0

亡くなられた方	昨年度	12人	退所された方	昨年度	2人
	今年度	18人		今年度	2人

亡くなられた場所 内訳	病院	6人
	さくら苑	9人
	さくらんぼの家	3人
退所された方 内訳	さくら苑	1人
	さくらんぼの家	1人

\* 利用実績

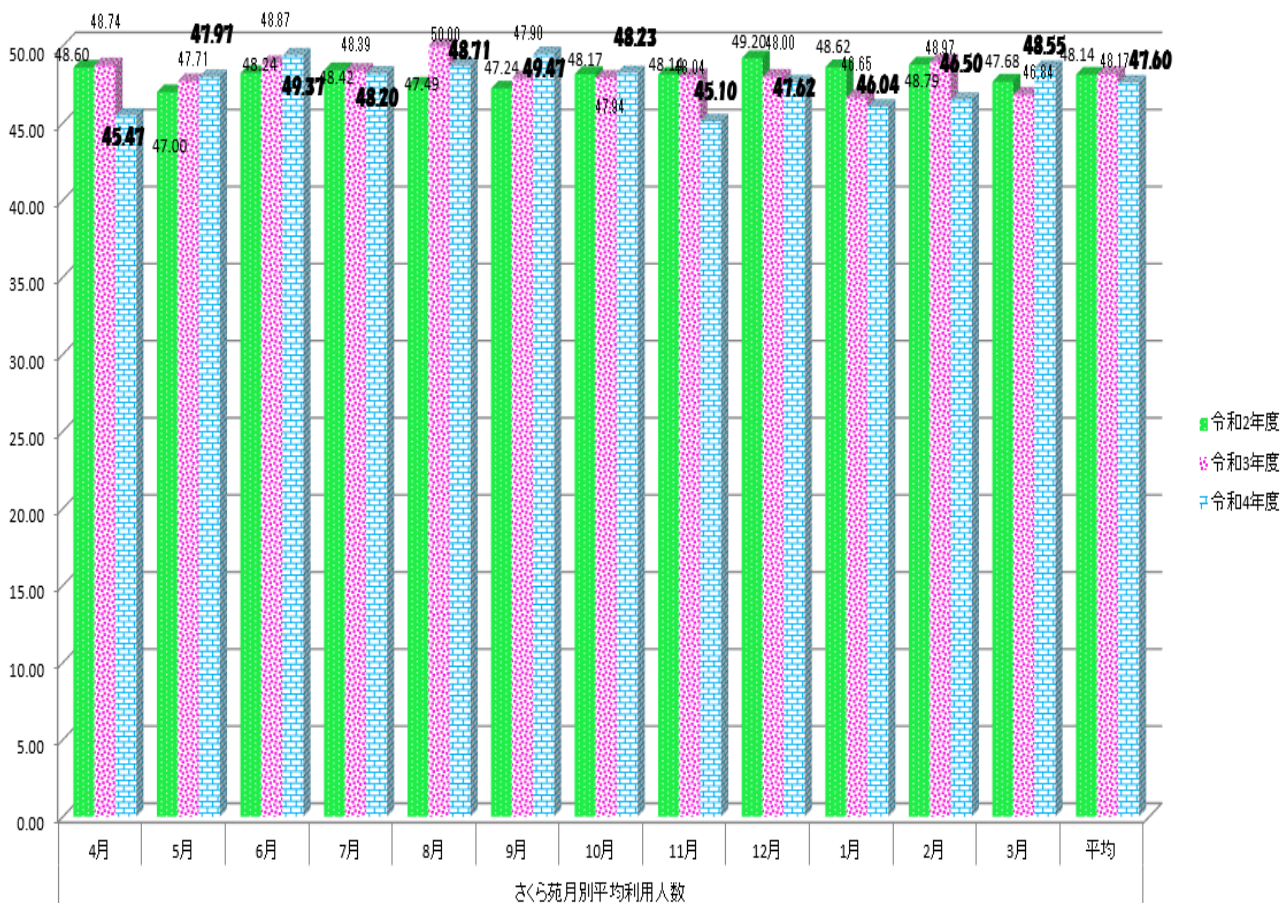
さくら苑月別平均利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	48.60	47.00	48.24	48.42	47.49	47.24	48.17	48.14	49.20	48.62	48.79	47.68	48.13
令和3年度	48.74	47.71	48.87	48.39	50.00	47.90	47.94	48.04	48.00	46.65	48.97	46.84	48.17
令和4年度	45.47	47.97	49.37	48.20	48.71	49.47	48.23	45.10	47.62	46.04	46.50	48.55	47.60

96.27%  
96.34%  
95.21%

さくら苑月別平均介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	3.84	3.7	3.78	3.8	3.71	3.68	3.78	3.81	3.88	3.83	3.84	3.73	3.782
令和3年度	3.84	3.75	3.86	3.81	3.96	3.77	3.8	3.86	3.87	3.79	3.99	3.87	3.848
令和4年度	3.77	3.94	4.00	3.86	3.87	3.98	3.88	3.64	3.88	3.72	3.8	3.95	3.858



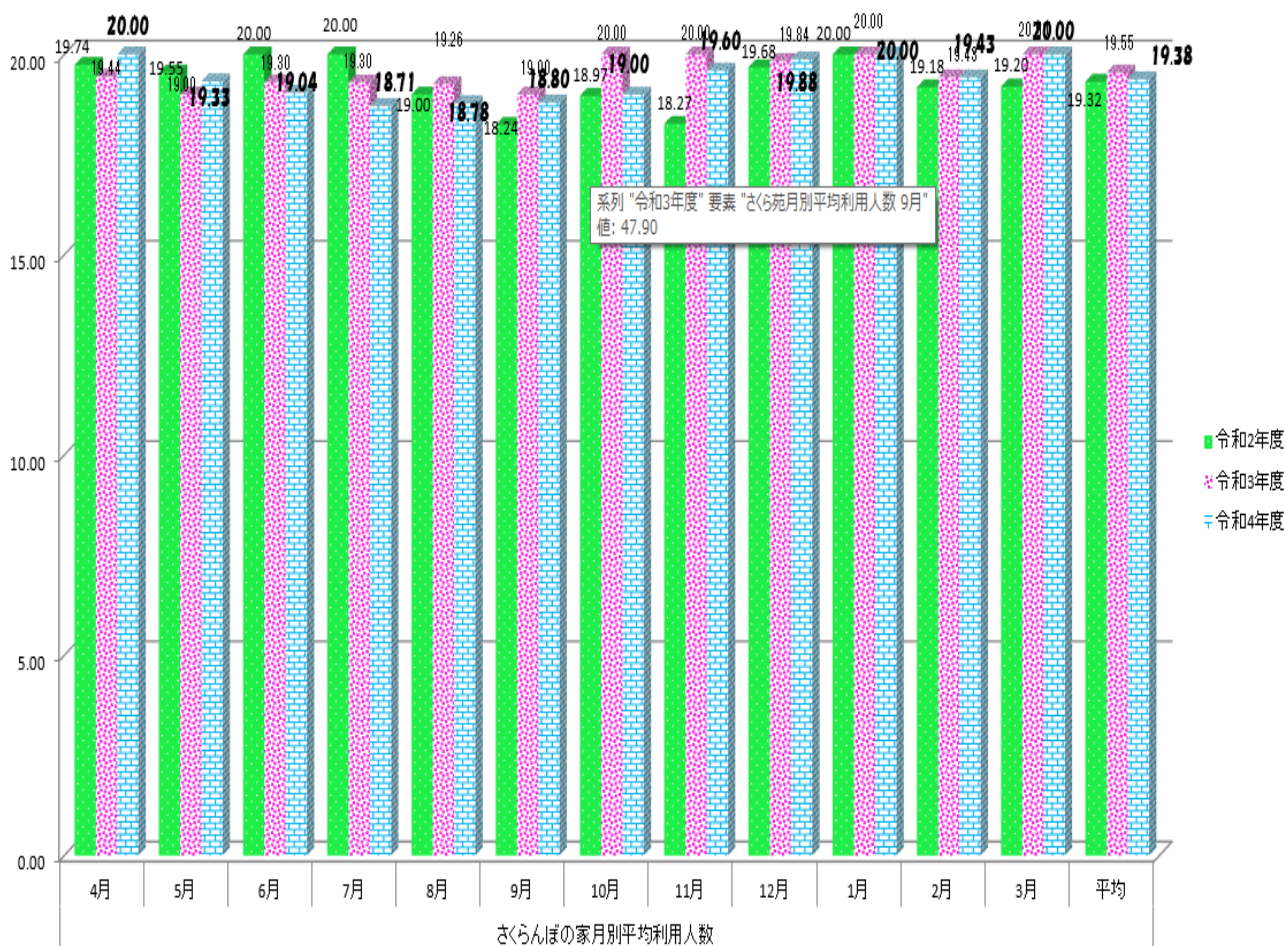
さくらんぼの家月別平均利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	19.74	19.55	20.00	20.00	19.00	18.24	18.97	18.27	19.68	20.00	19.18	19.20	19.32
令和3年度	19.44	19.00	19.30	19.30	19.26	19.00	20.00	20.00	19.84	20.00	19.43	20.00	19.55
令和4年度	20.00	19.33	19.04	18.71	18.78	18.80	19.00	19.60	19.88	20.00	19.43	20.00	19.38

96.60%  
97.74%  
96.90%

さくらんぼの家月別平均介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	4.11	4.06	4.20	4.20	4.02	3.84	3.98	3.79	4.04	4.10	3.90	3.84	4.01
令和3年度	3.81	3.70	3.78	3.78	3.80	3.80	3.90	3.95	3.93	3.95	3.89	3.95	3.85
令和4年度	3.95	3.81	3.75	3.78	3.74	3.70	3.65	3.74	3.78	3.85	3.77	3.80	3.78



# 令和4年度短期入所生活介護事業報告

## 1. 総括

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の流行が治まらず、昨年に引き続き事業等が制限されたり中止された一年でした。短期入所は送迎時の検温実施、利用者様のマスク着用、手指消毒を行っておりましたが、令和5年1月1日にショート利用者の方から、陽性者が3名発症してしまいましたが、幸い重症にはなりませんでしたが。

新規の方が22名ご利用していただき、一年を通じて年間利用者数で3,117名（前年3,382名）前年対比92.2%、一日平均8.5名（前年9.3名）で前年対比91.4%、実利用者数65名（前年68名）前年対比95.6%でした。新型コロナウイルス感染症の発症があり、ショートの受け入れを1月から3月に21日間中止をしました。

コロナ禍の中で外出支援は4月のお花見ドライブ（4名参加）しか開催できませんでしたが、畑での野菜作りを利用者の方に指導していただき、新鮮な野菜を収穫できました。天気の良い日は、苑の周りを散歩するなど少しでも利用者様が気分転換できるように支援しました。

また、『一人ひとりに寄り添い、敬い、尊重し、心地よい空間と安心をお届けする』をスローガンに掲げ、利用者様・ご家族様の思いを大切にし、ご利用時や在宅でも安心した生活と、心にゆとりのある生活で笑顔のある日々を過ごしていただけるよう支援しました。

## 2. 事業の実績

### (1) なじみの関係

コロナ禍の中で外部の方の訪問を制限してできませんでした。

### (2) 稼働率安定

稼働率85.%(一日平均利用者数8.5人)と目標を下回りました。居宅介護支援事業所に空床情報を提供し、柔軟に対応しました。

### (3) 外出活動

花見ドライブを1回、車内からの花見でしたが大変喜んでいただきました。買い物ツアーやブドウ狩りはコロナ禍で開催することはできませんでした。

### (4) 短期入所生活介護計画及び指定介護予防短期入所生活介護計画の作成

サービスを提供する場合は、短期入所生活介護計画を作成し、利用者の心身の状態が低下しないよう適切に支援することができました。

### (5) 身体拘束の禁止

生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束（スピーチロック）も含むその他、行動を制限する行為を行わないこととし、利用者が人間らしく尊厳のある生活を送れるように努めました。

### (6) 健康管理

健康管理については、看護職員等により健康状態の観察を行い、異常時は速やかに対応しました。

(7) レクリエーション

毎日、塗り絵や歌、壁面作り、クイズ、カードゲーム等をして、少しの時間でしたが大声を出しながら、楽しく行いました。また、2ヶ月に1回ショート独自のレクリエーションを行い、利用者同士のコミュニケーションを図るよう努めました。

(8) ご家族様との信頼関係を構築

連絡ノートを活用しご家族様のニーズを把握して満足度の高いケアを提供するよう努めました。

### 3. 利用状況

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1日平均利用者数 R4年度		8.9人	8.7人	8.5人	8.7人	8.5人	9.3人	10.2人	9.5人	9.7人	5.0人	7.3人	8.4人
1日平均利用者数 R3年度		8.8人	10.2人	9.2人	9.5人	9.5人	9.0人	8.6人	8.8人	9.6人	9.1人	9.7人	9.3人	9.3人
目 標		10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人
介護報酬日数(R3)		265人	316人	277人	294人	294人	271人	268人	265人	298人	283人	271人	277人	3382人
介護報酬日数(R4)		267人	268人	254人	270人	263人	279人	317人	285人	300人	155人	205人	260人	3123人
前年対比(%)		100.80%	84.80%	91.70%	91.80%	89.50%	101.00%	118.30%	107.60%	100.80%	54.70%	75.60%	93.90%	92.30%
前月対比(%)		96.40%	100.40%	94.80%	106.30%	97.40%	106.10%	113.60%	89.60%	105.30%	51.70%	132.30%	126.80%	

#### 【介護度別利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	前年度
要支援 1	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
要支援 2	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	0(0)	2(1)	2(1)	22(1)	28(2)
要介護 5	0(0)	5(2)	9(1)	9(2)	6(1)	12(2)	8(1)	12(2)	10(2)	3(1)	6(1)	8(2)	88(2)	100(2)
要介護 4	45(7)	41(6)	39(5)	37(6)	32(7)	52(8)	84(10)	66(11)	73(11)	23(7)	31(6)	47(9)	570(17)	431(13)
要介護 3	100(12)	93(10)	92(10)	88(9)	95(11)	110(11)	112(14)	99(12)	105(13)	56(9)	82(10)	101(11)	1133(22)	922(18)
要介護 2	72(9)	96(11)	86(10)	108(15)	93(12)	69(10)	80(11)	68(10)	72(10)	42(7)	50(6)	69(8)	905(12)	1241(19)
要介護 1	48(7)	31(5)	26(4)	26(4)	29(4)	34(5)	31(6)	38(5)	38(5)	31(3)	34(5)	33(6)	399(11)	657(14)
計	267(36)	268(35)	254(31)	270(37)	259(36)	279(37)	317(43)	285(41)	300(42)	155(27)	205(29)	260(37)	3117(65)	3382(68)



# 令和4年度木次町デイサービスセンター事業報告

## 総 括

ご利用者様の身体的・精神的な健康の保持と状態変化への適切な対応を実践する事ができました。レクや季節の行事などに参加された利用者様が、非常に楽しんでいる様子を多く見る事ができて印象的でした。レクや行事だけでなく、適切な介護技術を以て、快適な入浴・排泄・食事をしていただけるように職員一同心掛けました。

これからも関わりの中で生き甲斐を持っていただける様、改善できる所は改善しながら今後も質の高いサービスを提供し、安心・安全に利用していただけるように努めます。

## 1. 事業目的について

通所介護事業の目的である、「その利用者様の人格・意思を尊重し、ご利用者様の立場に立った適正なサービスを提供し、可能な限り家庭においてその有する能力に応じ自立した生活を営むことを図ると共に、ご利用者様ご家族様の身体的・精神的負担及び介護負担の軽減を図る。」ことについて、それぞれの専門職が協働の姿勢で関わり、チームケアを行う事ができました。また、リハビリの最中に本人様の意思や訴えを重視し、無理なく”楽しみから進んでできるリハビリ”を目指し、できるという達成感を味わっていただけるよう実施しました。

## 2. 事業実績について

### (1) 自立支援・個別ケアについて

利用者様や家族様の人権尊重の考えを柱に、計画書の作成とサービス提供を行い、従来の生活の継続とその人らしい生活を営んでいただけるように支援しました。

普段の会話や意見交流会などのご意見または家族様から家庭での状態などを聴取し、それをプログラムに取り入れ改善して個別ケアに繋げることができました。

### (2) 状況把握と意向を踏まえた同意について

サービス提供前に、アセスメントをしっかりととり、利用者様と家族様の状態や意向を把握し、同意を得たうえでサービス提供を行いました。

### (3) 情報の共有化について

ケース検討や介護技術研修などを実施し、ご利用者様の状態やケアの方法など情報の共有や知識、技術の向上を行いました。個人ノートを活用し他事業所との情報共有も行き円滑に対応できました。

### (4) 運営体質の改善について

お客様の声やご意見をいただくとその日のミーティングで話し合い、改善策を検討しました。また、すぐに対応できない懸案についても、鋭意改善に向け努力しました。短期入所施設との連携を取りお客様のためのサービス提供に努めました。

### (5) 継続的サービスの実施について

居宅介護支援事業者や地域包括支援センターと随時または継続的にサービス評価や情報提供を行い、利用者様や援助の増を図ることができました。

#### (6) 評価・見直し・提案について

ミーティングやケース検討などで、利用者様の状態把握をし、定期的に通所介護計画の評価・見直しを行い、関係事業所に対し報告書や電話連絡や訪問によって提案を行いました。

### 3. 感染症対策について

コロナウイルス感染症が広がる中、以下の対応を実施し感染予防に努めました。5類に移行後も、引き続き基本的な感染対応は継続して行います。

- ・送迎時、車内に乗り込む前の検温の実施、送迎後の車内のアルコール消毒
- ・各テーブルをアクリル板で仕切る事により飛沫感染を防ぐ
- ・新型コロナ等、各感染症の動向把握と予防対策のマネジメントの実施
- ・濃厚接触者等の利用の休止

### 4. サービス提供について

#### (1) 連絡体制の確立と関係性の強化

ご利用者様と関わる事業所間で個人ノート等を活用し連絡体制や関係性・信頼性の強化を図りました。このことにより、チームケアの実践と基盤づくりができました。

#### (2) 利用実績について

①令和4年度の新規契約件数は30件/年間でした。

コロナや大雪の影響で稼働しなかった日もあり、平均利用者数が20人を切る月も多くありました。1月についてはコロナの関係で休止した日も多くあり、稼働日が14日となっております。

上半期利用状況	合計	R04.4	R04.5	R04.6	R04.7	R04.8	R04.9
稼働日数	295	26	26	26	23	26	26
全体(実人数)	—	70	73	72	69	64	67
全体(延べ人数)	5,770	524	554	541	445	503	504
平均利用者数	19.6	20.2	21.3	20.8	19.3	19.3	19.4
平均介護度	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2

下半期利用状況	合計	R04.10	R04.11	R04.12	R05.1	R05.2	R05.3
稼働日数		26	26	25	14	24	27
全体(実人数)		69	69	64	57	59	65
全体(延べ人数)		532	511	459	239	454	504
平均利用者数		20.5	19.7	18.4	17.1	18.9	18.7
平均介護度		2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.1

### 5. 身体拘束廃止に向けた取り組み

○苑内研修等で全員が共通の理解を持つことができました。

令和4年度、身体拘束件数 0件

## 6. 要望・クレーム・トラブルへの対応

①外部から受け付けたクレームは「クレーム解決規定」により「クレーム受付書」や「お客様声ノート」に記載し、その対応方法について全職員が意見を出し合い協議し、クレーム内容については真摯に受け止め改善しました。

また、福祉見聞録の掲示板や個別記録を活用し情報の共有に努めました。

②送迎時、家族とのコミュニケーションを図り信頼関係を築き、話し合える関係作りに努めました。

③日々の利用者様からのどんな小さな意見・要望・クレームを聞き逃さないよう心掛け、必要時にミーティングにおいてそれぞれに聴取した意見や気づいた点を話し合い、改善が必要な場合は協議し適切かつ迅速に対応するとともに、可能な限り利用者様の意見を反映できるよう努めました。

## 7. 地域・家族との交流・連携、年間行事について

コロナ禍であり思うような交流はできなかったが、コロナ禍だからこそ出来る活動を検討し、感染対策に十分留意しながら、実施しました。

また、感染状況に留意しながら、4月には花見ドライブ、11月には紅葉ドライブなどを実施し、楽しんでいただきました。

## 8. 職員の技術・能力向上への取り組み

○1対人援助技術の向上のため、法人内の研修に参加し技術力向上に努めました。

○職場内研修を実施し、職員の資質向上とサービスの質の向上に努めました。また、家族からの情報や個人の状態の変化についてミーティング等で話し合いその後ケアに繋げる事ができました。

○チームビルディングを意識し職務に取り組み、職員間で声掛けして連携を図りながらお互いに助け合って人の仕事も自分の仕事として協力できました。

# 令和4年度木次居宅介護支援事業所事業報告

## 1. 総括

続く新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用者様の生活にも様々な影響があるなか、行政や地域包括支援センター、サービス事業所との連携を持ち、支援が止まることのないよう連絡調整を図りました。介護支援専門員3名体制で、病院や地域包括支援センター等からの紹介により積極的に新規ケースを受け入れました。難治性疾患や虐待の疑い、介護者が精神疾患である等支援が困難なケースにも事業所内で共有すると共に地域包括支援センターに相談をしながら最善の対応を行いました。

## 2. 事業運営状況

- ・令和4年度事業目標、月平均105件、介護支援専門員一人あたりの基準担当件数35件を概ね達成し、健全な経営に努めました。
- ・雲南市地域包括支援センターから委託を受け、各介護予防事業所と連携し業務を実施しました。実績は、以下のとおりです。  
介護予防業務 42名・介護予防マネジメント業務 1名（延べ人数）

## 3. 給付動向

### 令和4年度給付管理数

項目	新規受入数	総合計	月平均	一人当たり件数
件数	37	1219.5	101.6	33.9

### 加算取得件数

項目	入院連携 I	入院連携 II	退院退所加算 I 1	退院退所加算 II 1	退院退所加算 I 2	退院退所加算 II 2	退院退所加算 III	初回加算	通院時連携加算
件数	43	8	18	8	0	1	0	22	4

## 4. 個別項目

### ①ケアマネジメントの充実

行政機関、雲南市地域包括支援センター、医療等、多職種との連携により自立支援に向けて包括的なケアマネジメントを実施しました。各加算の算定を確実にを行うために根拠書類を揃えています。

### ②介護支援専門員の資質・向上を図る

概ね週1回、事業所内会議を開催しケアマネジメントに関する知識を深め、事例検討や制度・情報の共有を行いました。令和3年度から続く感染症流行により施設外研修への参加は少ないですが、自立支援ケア会議、地域ケア会議、介護支援専門員県協会および雲南地域協会主催の研修、事業所内でのWEB研修等、感染状況に応じ対策を行いながら参加しました。

### ③地域貢献

全国的なコロナウイルス感染症流行により地域や自治会行事が中止となっている為、年度内の認知症キャラバンメイトの活動はありませんでした。地域に開かれた事業所として、なんでも相談できる窓口であるよう体制を整えています。

# 令和4年度小規模多機能型居宅介護事業所桜花 事業報告

## 「総括」

- ・運営推進会議にて地域の現状と活動状況を話し合い、地域密着型施設としての存在意義や地域に根ざした施設づくりを事業計画に反映させました。
- ・小規模多機能の持つ地域に根付いた活動や地域交流を行うべく努力しましたが、新型コロナウイルス感染対策・蔓延防止にて地域交流は実施できておりません。コロナ禍においても登録の方々のQOL維持を目指し利用者とスタッフで共同企画し活動しました。

## 「ご利用者様、ご家族の意向を汲み取り桜花で出来るサービスを提案しました」

- ・毎月、桜花会議やケース会議において、新規ケースや対応困難事案の解決に向けて検討を行いました。
- ・「ライフサポートプラン」を多職種共同で作成し実践しました。ケース担当制にする事で、担当介護士がよりご利用者に向き合う機会深める事が出来ました。
- ・健康管理や家庭内の状況把握、声掛けを行う事でいつでも相談が出来る体制を確保しました。
- ・登録定員は、25名ですが目標の20名登録には至らず平均登録者数15.9名でした。

## 【介護度別×ケア種別】

	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2	
	実	延	実	延	実	延	実	延
通い	3	205	2	22	9	582	8	972
泊り	1	1	0	0	7	349	7	572
訪問	2	197	0	0	4	222	3	257
	要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延
通い	8	1,147	2	272	2	391	34	3591
泊り	7	562	2	126	2	386	26	1996
訪問	2	27	0	0	0	0	11	703

## 「対応とスキルアップ」

- ・資格取得を積極的に促し、スキルアップを図りました。今年度は、介護士1名が介護福祉士資格を取得しました。
- ・法人年間研修計画及び桜花研修計画に基づき研修を実施しました。
- ・「事故報告書」及び「ヒヤリハット」報告書をもとに改善策を検討し、法人のリスク委員会に報告して再発防止に努めました。
- ・「お客様ノート」の内容を桜花会議で話し合い、改善に向けた取り組みを行いました。お客様ノートの内容をもとに「苦情解決委員会」の議題として取り上げ、第三者委員と一緒に検討し改善策を導きだしました。

### 「地域へのアプローチ 地域とともに取り組むこと」

- ・年間行事計画の立案にあたって行事の担当を決め、担当者が中心となって行事を実施しました。
- ・コロナ禍で思うように地域交流ができませんでしたが、桜花内での季節行事や活動などをブログや桜花新聞に掲載し、情報発信しました。
- ・<http://www.sakurasaku-home.org/> ⇒ 「桜花ブログにて発信」